

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：32622

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15175

研究課題名(和文)ポートフォリオを用いた「チーム医療に必要なコンピテンシー」の評価方法の開発

研究課題名(英文)Development of evaluation method of competence required for team based medicine

研究代表者

榎田 めぐみ (Eneida, Megumi)

昭和大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：70385558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「チーム医療に必要なコンピテンシー」の抽出を行うこと、また評価の視点や尺度を決定すること、評価ツールとして確立していくことを目指し、取り組んだ。その結果、「チーム医療に必要なコンピテンシー」を抽出し、評価の視点を決定、ルーブリック評価表としてそれぞれのパフォーマンスを尺度として落とし込んでいくところまでは終了した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「専門職連携教育および連携医療のための行動の枠組み(WHO 2010)」は、互いに補い合えるスキルを有する専門職連携は最善の患者ケアを提供する鍵であり、そのためには保健医療福祉分野の学生が早期段階から一貫した専門職連携教育を通じて必要な知識とスキルを確実に修得できるようにする必要性を示唆している。A大学におけるチーム医療学習カリキュラムを終えた学生が身につけた能力は、CIHCの「多職種連携コンピテンシーフレームワーク」をほぼ網羅する内容になっており、IPWにつながる能力を修得できる卒前IPEであったという点で一つの学修モデルとして提案できる内容であると考え、社会的意義は大きいといえる。

研究成果の概要(英文)：Our purpose in this study was to extract “competencies required for team medicine,” determining perspectives and measures for their assessment, and establishing it as an assessment tool. As a result, we have, thus far, extracted “the competencies required for team medicine,” determined the perspectives for assessment, and applied each performance on a rubric evaluation table as assessment measures.

研究分野：多職種連携教育

キーワード：チーム医療 IPE IPW

1. 研究開始当初の背景

Interprofessional Work (IPW) とは、professional (専門職) チームによる collaboration (協働) をいい、保健医療福祉サービスを効果的かつ効率的に提供していくための望ましいアプローチの1つとして英国で生まれた概念である。

我が国においては、2006年以降、文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」などの採択を受けた医療系大学を中心に、Interprofessional Education (IPE) を軸にした教育プログラムが展開されるようになってきた。しかし多くの医療系大学においては、各学部の専門性に特化した教育が中心で、多職種間連携教育の必要性は認識していても、その取組としては不十分であるというのが現状である。2010年にはWHOから多職種連携教育における今後の活動の枠組みが報告され、より一層の卒前からの教育の拡充が求められていることとなった。卒前から系統的に、そして段階的に多職種連携教育を実施している大学は少なく、その評価まで行っているという点では、我々が渉猟した範囲では見当たらない。

2. 研究の目的

A 大学においては、医・歯・薬・保健医療学部(看護、理学、作業学科)4学部連携のIPEにより、チーム医療の実践に必要な多様な能力の修得を目的としたチーム医療学修カリキュラムを構築した。本研究では、このカリキュラムを通し学生に涵養された「チーム医療に必要なコンピテンシー」の評価方法を開発するために、まずは「チーム医療に必要なコンピテンシー」を浮き彫りにすることから始める。次に、各学年の経年的な変化を観察し、それぞれの学年における成長度と到達度の検討も行う。さらに、これらの分析結果から「チーム医療の実践に必要なコンピテンシー」を評価する視点や尺度を決め、その評価方法を実際のチーム医療学修の評価ツールとして活用し、妥当性を検討する、までを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 「チーム医療に必要なコンピテンシー」の抽出

チーム医療学修カリキュラムの最終段階である学部連携病棟実習における「チーム医療に必要なコンピテンシー」を浮き彫りにする。

各学年で実施されたチーム医療教育におけるポートフォリオの分析を行い、学年毎の到達度を浮き彫りにする。

(2) 「チーム医療に必要なコンピテンシー」の評価方法の検討

(1)の分析結果から経年的な変化を観察し、各学年における到達レベルを浮き彫りにする。

ポートフォリオを評価するためのパラメータを決める(各学年で実施されるチーム医療学修全て)。

(3) 開発した評価方法の運用、妥当性の検討

4. 研究成果

IPEによる系統的、段階的な卒前のチーム医療学修カリキュラムの最終段階に位置する学部連携病棟実習を終えた学生が身につけた能力は何かを明らかにするために、学部連携病棟実習の学修成果が収められた学生のポートフォリオをテーマ分析の手法にそって分析した。

その結果、学部連携病棟実習を終えた学生が身につけた能力は、患者中心のチーム医療の実践、多職種連携のための価値観/倫理、多職種連携のための円滑なコミュニケーション、チームとチームワーク、多職種の役割/責任の理解、自己の専門職の役割/責任の理解の6つの要素と16の能力であった(表1)。これらの能力は、Canadian Interprofessional Health Collaborative による多職種連携コンピテンシーと概ね整合していた。

その他、1年次の学部連携PBLチュートリアルは、協働学修へ積極的に参加する必要性を認識する、4学部の学生間の相互理解を促す、情報リテラシーに基づく学修の必要性を理解する、能動的な学修の姿勢を強化する機会になっており、過去の経験と異なる学修環境への順応に焦点がおかれた学修となっていた。またチームメンバーの意見を傾聴する姿勢をもつ、チーム内での情報共有や合意形成の必要性を理解する、リーダーシップの重要性を認識する機会になっており、チームワークやチームにおける自己の役割/責任について考えを深める学修となっていた。

2年次以降の学部連携PBLチュートリアルは、チーム医療に引き寄せた形で実施される。これらの体験により、他の学部と互いに協働し合い取り組むことで患者の多角的な理解につながり、取りこぼすことなく問題点の抽出ができる、患者のニーズに合った質の高い医療を提供するにはチーム医療が重要である、そのためには多学部間での情報共有が重要であり、それを促進させるための円滑なコミュニケーションが必要不可欠であること、を理解する機会になっていた。またこれらの学修過程で他学部と相互に協働し合い、相互依存関係を築いていく必要がある、他の学部と相互理解を深め、相互に尊敬し合うことで連携・協働が深まる、

チーム内で自己の専門性を発揮していく中でチーム医療における自己の役割の在り方を明確にする必要がある、などを理解し、さらなる学修の必要性を認識する機会となると同時に、チーム医療を疑似体験する学修となっていた。

表 1 . 学部連携病棟実習を終えた学生が見つけた能力

要素	能力
患者中心の チーム医療の実践	チームで患者の情報や知識を共有する
	患者の全体像をチームで把握する（問題の抽出、優先順位の決定まで）
	患者にとって最善の治療・ケアプランをチームで立案する
	治療・ケアプランにそった実施内容を評価する
多職種連携のための 価値観/倫理の涵養	患者を尊重する姿勢がもてる
	チームメンバーを尊重する姿勢がもてる
	多職種連携の重要性を理解する
多職種連携のための 円滑なコミュニケーション	積極的に参加する
	傾聴する
	言外の気持ちや思いをくみ取る
	わかりやすく説明する
チームとチームワーク	協働関係を築く
	チームで合意を形成する
多職種の役割/責任の理解	多職種の役割/責任を理解する
自己の役割/責任の理解	チーム医療における自己の役割を果たす
	チーム医療における自己の専門的役割を果たす

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

榎田めぐみ、鈴木久義、片岡竜太他 . 多職種連携実践に向けて医系学生が身につけた能力とは? - 卒前の多職種連携教育の意義 - . 医学教育 2018 ; 49 (1): 35 - 45. (査読あり)

〔学会発表〕(計 1 件)

榎田めぐみ 多職種連携教育のコンピテンシー ポートフォリオ及び参与観察による質的検討から ; 第 48 回日本医学教育学会大会 : 2016 年 07 月 29 日 ~ 30 日 (大阪医科大学) .

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
 発明者 :
 権利者 :
 種類 :
 番号 :
 出願年 :
 国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
 発明者 :
 権利者 :
 種類 :
 番号 :
 取得年 :
 国内外の別 :

〔その他〕
 ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：鈴木久義

ローマ字氏名：Suzuki Hisayoshi

所属研究機関名：昭和大学

部局名：保健医療学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：70300077

研究分担者氏名：下司映一

ローマ字氏名：Geshi Eiichi

所属研究機関名：昭和大学

部局名：保健医療学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：50192050

研究分担者氏名：片岡竜太

ローマ字氏名：Kataoka Ryuta

所属研究機関名：昭和大学

部局名：歯学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：20214322

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。